

CHIBA

～住み慣れた地域で生き生きと
暮らし続けられる千葉県を～

「地域包括ケアシステム」



住まい

介護
予防

生活
支援

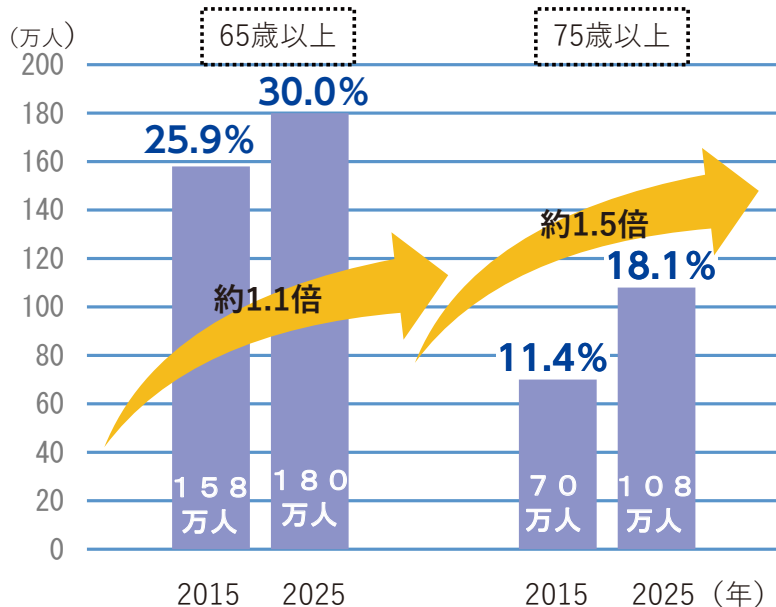
介護

医療

千葉県

千葉県の高齢者の現状

◇高齢者は、今後も増え続けます



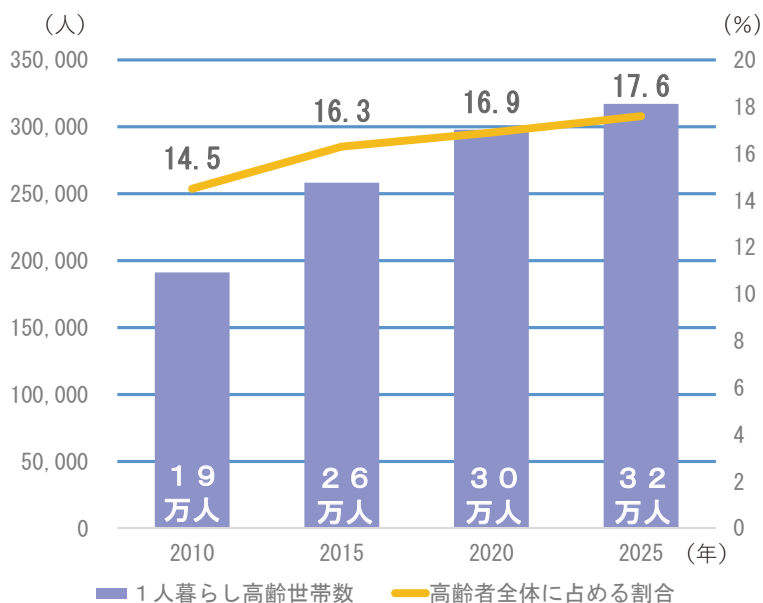
千葉県の人口は緩やかに減少していきませんが、高齢者は増加し続け65歳以上の高齢者については、約1.1倍、75歳以上の後期高齢者については、約1.5倍に増加することが見込まれています。

出典：2015年は総務省統計局「国勢調査結果」
2025年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」



75歳以上になると介護が必要になる人の割合が、大きく増えると言われています。
高齢者の暮らしを支える担い手がますます必要になります。

◇一人暮らしの高齢者が増えていきます



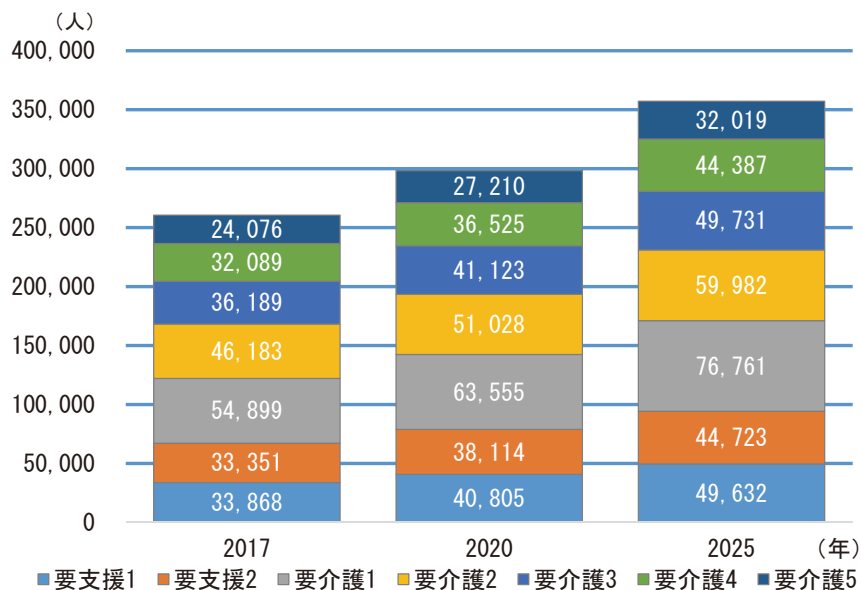
一人暮らしの高齢者世帯数は、約19万世帯から32万世帯に増加することが見込まれております。高齢者全体に占める割合は、17.6%になると見込まれています。

出典：2015年以前は総務省統計局「国勢調査結果（各年10月1日現在）」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）（2014年4月推計）」



人との交流が少なく、頼れる人がいない場合があります。
また、高齢者は家庭内の事故も多く、一人暮らしの高齢者が孤立化しないよう地域で支える必要があります。

◇介護や支援を要する人は増えていきます



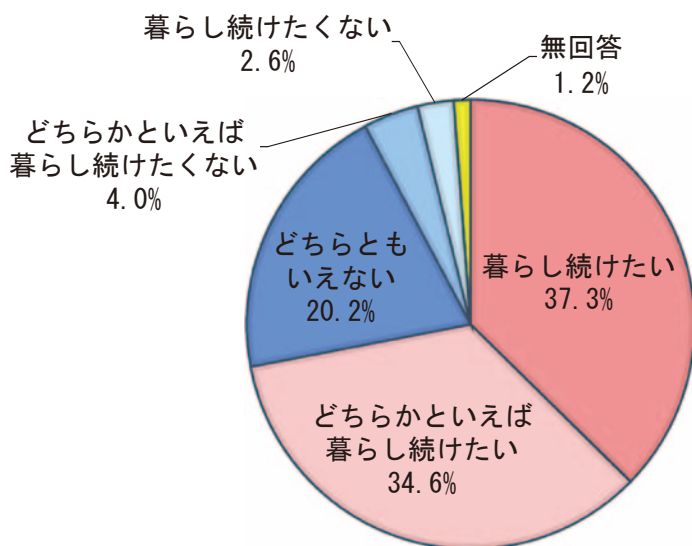
千葉県の要介護等認定者数は、年々増加することが見込まれています。要介護4及び5のいわゆる重度者は、2025年には7万6千人を超える見込みとなっています。

出典：2017年度は市町村の見込値の合計による。2020年度、2025年度は市町村の推計値の合計による。

介護者の多くが、同居している家族です。
高齢者が高齢者の介護をする等、家族の負担も増えます。



◇多くの方は、住み慣れた地域で暮らし続けることを希望しています



介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいと思うか聞いたところ、「暮らし続けたい」「どちらかといえば暮らし続けたい」と希望した方が全体の7割を占めています。

出典：第55回県政に関する世論調査（平成29年度）

このような現状の中、高齢者が住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしを続けるためにはどうすればいいのでしょうか？

次ページで



地域包括ケアシステム

高齢者が住み慣れた地域で、安心して自分らしい暮らしを続けるためには、「住まい」・「医療」・「介護」・「介護予防」・「生活支援サービス」が、地域の中で一体的に提供される仕組み作りが必要です。

この仕組みを・・・「**地域包括ケアシステム**」といいます。



地域包括ケアシステムの5つの要素

住まい ……自宅、サービス付き高齢者向け住宅、養護老人ホームなど

医療 ……かかりつけ医、かかりつけ薬剤師、訪問看護など

介護 ……訪問介護、通所介護、小規模多機能、特別養護老人ホームなど

介護予防 ……体操教室、口腔ケア、栄養指導など

生活支援 ……清掃や買い物の支援、配食サービス、見守りや安否確認など

在宅生活を支える「相談窓口」

◇地域包括支援センター

地域包括支援センターは、身近な生活圏域ごとに設置されています。

高齢者の皆さんが、住み慣れた自宅、地域で暮らし続けられるよう、様々な相談に応じています。

介護、福祉、医療に関することなど、どこに相談していいかわからない場合、まずはお住まいの市町村の地域包括支援センターにお気軽にご相談ください。

総合相談・支援

本人、家族、住民からの
相談窓口になります

権利擁護

虐待・消費者被害・金銭管理
など高齢者の権利を守ります

包括的・継続的 ケアマネジメント

医療機関、民生委員、介護サービス
事業者など様々な機関をつなげ、
地域で支援します

介護予防

ケアマネジメント

要介護状態にならないために
ケアプランを作成します

千葉県内の地域包括支援センター一覧は、
下記の千葉県ホームページでご覧いただけます

[https://www.pref.chiba.lg.jp/hoken/
kaigohoken/service/
houkatsushien.html](https://www.pref.chiba.lg.jp/hoken/kaigohoken/service/houkatsushien.html)

QRコード



保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー
などの専門スタッフが対応します

「地域包括ケアシステム」は、行政や医療・介護などの専門職の方だけではなく、地域のことを一番良く知っている地域の皆さんの力が不可欠です。地域の特性に合った地域づくりを地域みんなで作っていきましょう！

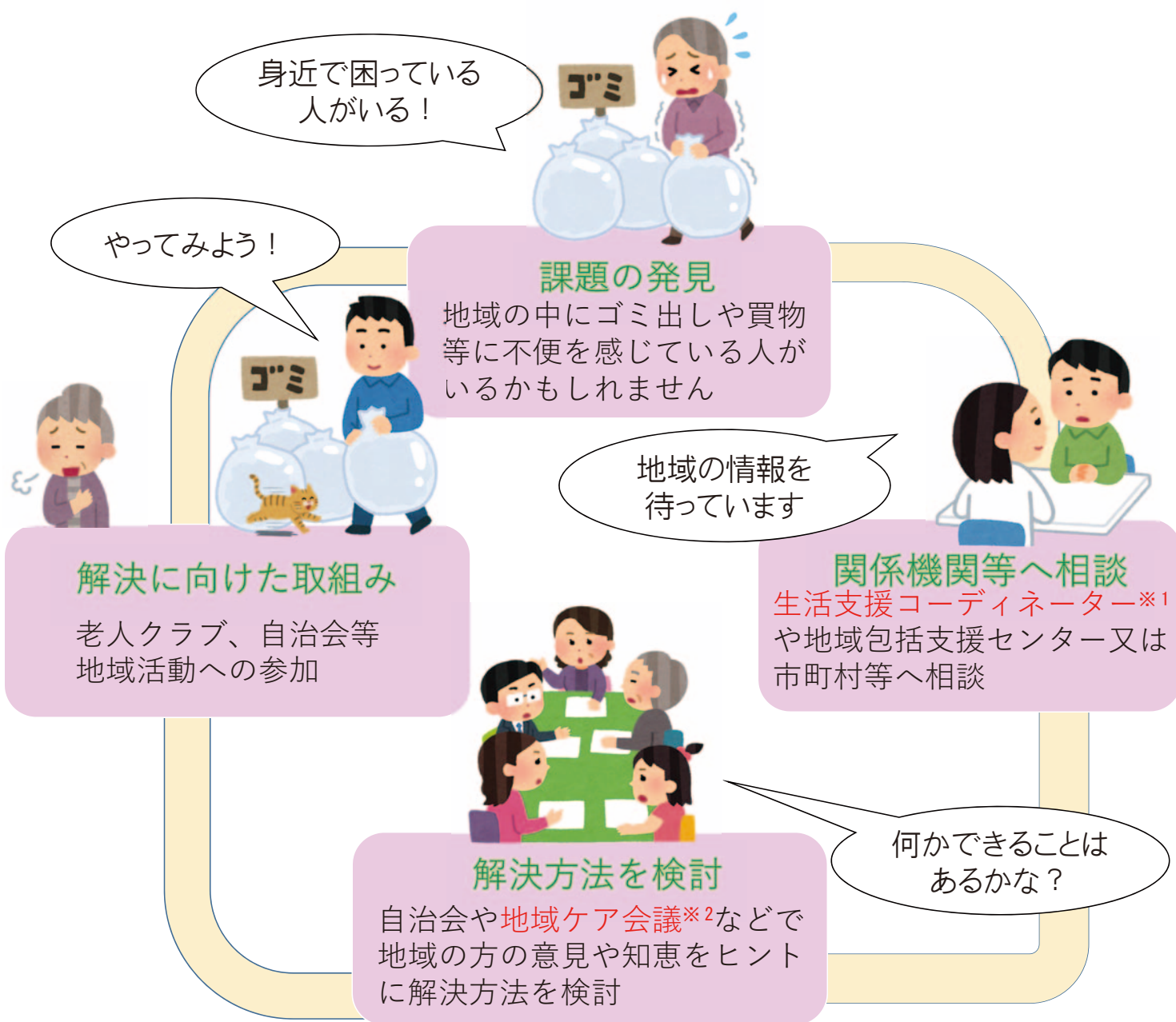
普段の生活の中でできる取り組みは？

👉次ページで



私たちが地域でできること

地域住民や多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながっていくことが大切です。



※1 生活支援コーディネーター:地域において介護予防・生活支援サービスの資源開発やネットワーク構築を行う人です。

※2 地域ケア会議:地域包括支援センター等で開催されている高齢者の支援方法を検討する会議です。



まずはできることから！

近所の人に挨拶や世間話をするところから始めてみよう！

高齢者孤立化防止活動

◇ちばSSKプロジェクト

一人暮らしの高齢者などが孤立することなく、必要な支援を受けながら安心して暮らせるよう、地域において声かけや見守りなどの支え合い活動を実践することが重要です。そこで、県では、県民一人ひとりが具体的な行動を起こすきっかけづくりとなるよう、「ちばSSKプロジェクト」を実施しています。

SSKとは？

「SSK」は、「しない」のS、「させない」のS、「孤立化！」のKと、それぞれのアルファベットの頭文字を取って記号化したものです。

ちばSSKプロジェクトシンボルマーク



高齢者地域支え合い活動団体表彰

高齢者地域支え合い活動に取り組んでいる団体を対象に、その取組みを称えるとともにこれを広く紹介するための表彰制度です。

平成30年度	千葉県知事賞	九丁目きずなの会(我孫子市) 「高齢者の見守り活動及びサロン活動」
	奨励賞	やまゆり会(印西市) 「認知症予防を目的としたサロン活動」 総元地区地域ぐるみ福祉協議会(大多喜町) 「お弁当配食を通じた見守り活動」

協力店登録制度

日常業務の中で声かけや新聞等がたまっていないかの確認などの高齢者の見守りのほかに、運動指導や交通安全の呼びかけ等、事業所の特性を生かした取組みを合わせて行う事業所を『「ちばSSKプロジェクト」協力店』として登録します。

どんどん増えているね！



平成31年1月4日時点で622事業者が登録されました。登録した際には、県ホームページに掲載し、希望する事業所にはステッカーを交付します。

各種相談窓口

高齢者の介護、福祉、医療に関する相談(どこに相談したらいいかわからない場合)など

- お住いの市町村の地域を担当する「地域包括支援センター」
<https://www.pref.chiba.lg.jp/hoken/kaigohoken/service/houkatsushien.html>

QRコード



介護サービスを利用したい、施設に入りたい等の相談
※介護保険や介護サービスに関すること

- お住いの市町村介護保険担当窓口
<https://www.pref.chiba.lg.jp/koufuku/kaigohoken/service/busho.html>

QRコード



認知症・若年性認知症の人やその家族の悩みについての相談

- ちば認知症相談コールセンター
TEL.043-238-7731(月、火、木、土曜日の午前10時から午後4時)
<http://www.chiba-alzcc.com/>
- 千葉県若年性認知症専用相談窓口
TEL.043-226-2601(月、火、水、金曜日の午前9時から午後3時)

QRコード



認知症に関する専門医療相談、医療情報提供

- 認知症疾患医療センター(県内11か所)
<https://www.pref.chiba.lg.jp/koufuku/shien/ninchishou/d-center.html>

QRコード



ひとりで悩まないで!

お気軽にご相談ください。地域包括ケアシステムの構築には県民、専門職、行政みんなのちからが必要になります。

【発行】

千葉県健康福祉部高齢者福祉課 地域包括ケア推進班

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1

電話：043-223-2342 FAX：043-227-0050

ホームページ：<https://www.pref.chiba.lg.jp/koufuku/houkatsukea.html>

QRコード



「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。